
VCH1 クライアント (Ver.1.05) リリースノート

データバースト株式会社

[リリースバージョン]

1.05

[リリース日]

2019.12.9

[仕様変更]

- ・Android タブレットのサポート。

使用可能な Android のバージョン: Android 5.0 以上

<Android タブレットで会議に参加する場合の制限事項>

- ・参加できる会議の規模: 最大 10 拠点までの会議
- ・画面共有可能な Android 端末の画面: 全体画面のみ

- ・小さい画面での操作に適した大型操作パネルの追加。

<大型操作パネルの仕様>

- ・クライアントの設定画面で大型操作パネルを使用する、しないを設定する。
デフォルト値: Android タブレットでは”使用する”、Windows/Mac パソコンでは”使用しない”
- ・操作バーの入力ボタン以外の部分を押して、大型操作パネルの表示、非表示を切り替える。
- ・操作バー上の各ボタンを拡大して、大型操作パネルに配置。
- ・操作バーにない下記新規ボタンの追加。
Exit ボタン: アプリケーションソフトウェアを終了して、会議から離脱する
Log ボタン: ネットワークログを表示する

- ・小さい画面での操作のための描画ツールパネル拡大機能の追加。
描画ツールパネルの入力ボタン以外の部分をダブルクリックすると、描画ツールパネルを拡大する。
再度ダブルクリックすると元の大きさに戻る。

- ・開催者が全体のコミュニケーションを管理できるセミナーモードの追加。

<セミナーモードの仕様>

- ・開催者がクライアントの設定画面でモード設定する。会議開催中のモード変更が可能。
モード 0: セミナーモードでない通常の動作モード
モード 1: 開催者以外の参加者も資料共有関連の操作が可能なセミナーモード
モード 2: 開催者以外の参加者は資料共有関連の操作ができないセミナーモード
モード 3: 開催者以外の参加者は資料共有関連の操作とマイク入力ができないセミナーモード
- ・セミナーモード時、開催者のビデオウィンドウを単独表示すると、開催者の会議画面には全参加者のビデオウィンドウが均等に表示される。他の参加者の会議画面には、従来どおり開催者のビデオウィンドウが単独表示される。

- ・ネットワークの帯域変化などを保存するログ機能を追加。

<ログ機能の仕様>

・記録されるイベント:

- サーバー (VCH1) 接続時の自クライアントの送信帯域測定結果
- サーバー (VCH1) の送信帯域 (全クライアントへの送信帯域) 検出
- 自クライアントの送信帯域検出
- サーバー (VCH1) と自クライアントとの通信コネクションの切断
- サーバー (VCH1) と自クライアントとの通信コネクションの再接続

- ・最大ログ件数: 1000 件 (超過すると古いログが上書きされる)
- ・大型操作パネルの Log ボタンでログ表示画面が表示される。
- ・ログ表示画面の Save ボタンでログデータのファイル保存が可能。
UTF-8 形式のテキストデータで保存される。

- ・パソコンの画面共有時、共有画面が元の画面より小さく表示される場合の解像度を向上。

[更新履歴]

Ver.1.04 2019.7.24

Ver.1.03 2019.5.16

Ver.1.02 2018.12.25

Ver.1.01 2018.11.19 初期リリース

過去のリリース (Ver.1.04)

[リリース日]

2019.7.24

[バグ修正]

・サーバーの送信帯域幅の増加が検出された場合、接続しているパソコンで新たな帯域幅に基づいたカメラ解像度の再設定を実行しないことがある問題を修正。

過去のリリース (Ver.1.03)

[リリース日]

2019.5.16

[仕様変更]

・通信速度が安定しないネットワーク環境に対応するため、パソコンとVCH1との接続がHTTPトンネリングやSSL/TLSでない場合、パソコンからVCH1への送信帯域幅の検出を、接続時だけでなく接続後も継続して実行するように変更。

[バグ修正]

・動きの激しい映像が続く場合、カメラの種類によっては、映像データの平均通信量が設定された上限値を超えることがある問題を修正。

過去のリリース (Ver.1.02)

[リリース日]

2018.12.25

[仕様変更]

・カメラ動作異常に対する回復を早めるため、処理シーケンスの一部を変更。

[バグ修正]

・接続画面およびログイン画面で言語設定を変更した場合に画面の表示位置が変わる問題を修正。
・会議開催者が再ログインした後にカメラ障害が発生した場合の動作バグを修正。